

2013年2月22日
法曹養成制度検討会議（第9回）
日本弁護士連合会 資料

資料No.	内 容	頁
1	地方・夜間法科大学院に関するアンケート 集計結果概要	1
2	地方・夜間法科大学院に関するアンケート 集計結果(地方法科大学院)	6
3	地方・夜間法科大学院に関するアンケート 集計結果(夜間法科大学院)	14
4	地方・夜間法科大学院に関するアンケート 依頼書, アンケート用紙	21

資料 1

地方・夜間の法科大学院に関するアンケート集計結果 概要

2013年2月22日

日本弁護士連合会

第1 実施概要

1 趣旨

地方・夜間の法科大学院の存在意義や必要性等について出身者の意識を調査する。

2 対象

地方・夜間の法科大学院出身の弁護士

・地方法科大学院：東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，愛知県，大阪府，京都府，兵庫県，福岡県以外の所在地に存在する法科大学院

・夜間法科大学院：土日・夜間に開講されている授業を中心に履修することで修了することができる法科大学院

3 方法

第60期から第65期までの全弁護士（約9000名）に対してFAXにてアンケート用紙を配布し，上記該当校出身者に回答を求めた。

4 回答数

・地方法科大学院出身弁護士278名

（参考：平成18年から平成24年までの司法試験合格者総数1285名）

・夜間法科大学院出身弁護士67名

（参考：平成18年から平成24年までの司法試験合格者総数342名）

第2 結果概要

1 地方法科大学院出身弁護士からの特徴的な回答傾向

(1) 回答者の属性（6頁）

「既修」 33.5% 「未修」 65.1%

＊地方法科大学院における平成18年から平成24年までの司法試験合格者総数1285名のうち，既修合格者総数571名（44.4%），未修合格者総数714名（55.6%）

（参考：全体の平成18年から平成24年までの司法試験合格者総数13149名，うち既修合格者総数8416名（64.0%），未修合格者総数4733名（36.0%））

(2) 法曹を志した理由（問3）（8頁）

「地域や人の役に立つ仕事がしたかった」 58.6%

(3) 出身法科大学院を選択した理由（最も重視した理由）（問4-1）（9頁）

「入学前の生活圏内またはその周辺」 22.7%

「出身大学，大学院と同じまたはその周辺」 11.9%

「出身地と同じまたはその周辺」 19.7%

*以上3つの選択肢で過半数を超える(54.3%)。

(4-1) 通っていた法科大学院がなかったら，他の法科大学院に進学していたと思うか(問4-2)(10頁)

「思う」 73.0% 「思わない」 26.6%

*「思う」との回答が多かったのは，同一県に2校ある等の事情も影響しているものと思われる。

(4-2) 「思わない」 具体的事情(問4-3)(10頁)

経済的事情，家庭や家族の事情を挙げる回答が多い。

経済的事情

- ・実家から出て勉強しながら生活するとなると生活費を稼ぐことすら困難。
- ・自宅から通学できることが絶対条件。
- ・自営業を営んでおり他の地域に移ることはできない。
- ・年金生活の母親と二人暮らしで，都市部の法科大学院に通学する経済的余裕がなかった。
- ・都市部の法科大学院では，学費・生活費が高額となるから。

家庭や家族の事情

- ・子育てや夫の仕事の関係で生活圏をかえることができなかったから。
- ・転居は子の転校を伴うのでできれば避けたい。
- ・高齢の母親をひとり実家に残すことになるから。
- ・父が病気であまり遠くにいけない。
- ・妻に仕事を辞めさせて家族で他県へ引っ越すことはできないし，妻に子育てを押しつけて他県へ独りで進学することもできなかった。

その他

- ・地元になれば，そもそも法曹という選択肢が自分に生まれなかった。

(5) 地方の法科大学院の特徴ある講義や取組(問5・問6)

- ・「在住外国人と法」：浜松地区等外国人労働者が多い地域における法的問題の検討(静岡)
- ・「地域と法」：地域に生じた法的問題について調査研究する(島根)
- ・「司法制度論」：司法過疎地域での弁護士の活動についての講義(北海道)
- ・「環境問題と法」：水俣病や諫早湾干拓など地域独自の環境問題を学ぶ(熊本)
- ・「米軍基地法」：米軍基地に関する様々な法的問題を検討する(琉球)
- ・「ハワイ大学ロースクール研修プログラム」：外国人向け短期プログラムの受講(琉球)
- ・ロースクールに法律事務所が併設(山梨学院)

- ・司法過疎地域での法律相談（鹿児島県／沖縄県の離島，北海道内全体，山陰両県各地など）

(6) 地方の法科大学院に学んで良かったと思うこと（問9）（13頁）

(7) 地方に法科大学院が存在する意義（問10）

地域貢献，過疎解消，教育の機会の均等，経済的利点，に着目した意見が多かった。

「地域貢献」「過疎解消」に関する主な意見

- ・地域の実情を講義，日常生活の中で実感しつつ，地域で求められる法的ニーズに応えられる地域に根ざした法律家を目指していけること。
- ・地方で生活をおくることにより，地方で活動することの魅力，地方そのものの魅力を知り，地方に根付く可能性が高くなる。
- ・地域に育ててもらったという意識があるかないかは法曹としての活動に少なからず影響を与えると思う。地域に貢献したいという気持ちが高い。

「教育の機会の均等」に関する主な意見

- ・地方に住む者，地方で働きたい者に，法曹となるチャンスを与える。
- ・教育学部や医学部が広く存在するのと同様に意義がある。

経済的利点に関する主な意見

- ・経済的事情や家庭事情などで地元から離れることができない人にも法曹を目指すチャンスが与えられている点。

その他の意見

- ・地方の法律文化の拠点として，必要である。
- ・地元弁護士会との密接な関係により，実務に直結した学習等ができる。
- ・地方は本当に大変。その地方のオンリーワンであり，その県の弁護士会等のプライドが試される。
- ・全国52の弁護士会の全てに経験豊富な実務法曹がいるのだから，ロースクール教育のためにこれを活かさないのはもったいない。

2 夜間法科大学院出身弁護士からの特徴的な回答傾向

(1) 回答者の属性（14頁）

「既修」 37.3% 「未修」 61.2%

＊夜間法科大学院における平成18年から平成24年までの司法試験合格者総数342名のうち，既修合格者総数99名（28.9%），未修合格者総数243名（71.1%）

（参考：全体の平成18年から平成24年までの司法試験合格者総数13149名，うち既修合格者総数8416名（64.0%），未修合格者総数4733名（36.0%））

(2) 大学の出身学部・学科の系統（問1）（15頁）

法学系が50.7%と最も多いが、次いで理工系14.9%、経済・経営学系10.4%、その他文系10.4%と続いており、夜間の法科大学院が他学部出身者の受け皿になっていることがうかがえる。

(3) 法科大学院進学以前の履歴（問2）（16頁）

大学・大学院生が13.4%と低く（地方は50.4%）、相対的に有職者の比率が大きい。

(4) 法曹を志した理由（問3）（16頁）

「仕事で法的専門性のニーズを感じて」 40.3%

「キャリアアップを図ろうと思った」 38.8%

(5) 出身法科大学院を選択した理由（最も重視した理由）（問4-1）（17頁）

「仕事・家事との両立」 40.6%

(6-1) 通っていた法科大学院がなかったら、他の法科大学院に進学していたと思うか（問4-2）（18頁）

「思う」 44.8% 「思わない」 55.2%

(6-2) 「思わない」 具体的事情（問4-3）（18頁）

経済的事情、仕事の事情を挙げる回答が多い。

経済的事情

- ・仕事を続けていかないと、生活費、学費を支弁できなかった。
- ・住宅ローンや親の高齢化もあり、仕事を辞めるわけにはいかなかった。
- ・合格できる保障がないのに仕事を辞めることはリスクが大きかった。

仕事の事情

- ・キャリア中断するつもりがなかった。
- ・結婚しており仕事を辞めることができなかったから。
- ・勤務終了後に授業に間に合うのは母校のロースクールのみであった。
- ・勤務先が認める立地、学校でなければ、周囲の協力が得られないため。

その他

- ・仕事を辞めて通うほどのリスクはとれない。

(7) 法科大学院に通うにあたって仕事を辞めたか（問11）（18頁）

「仕事をしていなかった」 16.4%

「辞めていない」 41.8%

「在学中に辞めた」 7.5%

* 49.3%が仕事を辞めずに法科大学院に入学。有職者43名中33名が入学時に仕事を辞めていない。

(8) 現在の職場（問13）（19頁）

「以前の勤務先」 10.4%

(9) 法科大学院進学以前の職能や専門分野を踏まえた活動（仕事）をしているか（問14）（19頁）

「している」 52.2%

(10) 夜間の法科大学院に学んで良かったと思うこと (問15) (20頁)

(11) 夜間の法科大学院の存在意義 (問16)

有職のまま通えること、法曹の多様性確保、学生同士の刺激などを挙げる意見が多かった。

有職のまま通える利点に関する主な意見

- ・働きながら仕事や家庭とは別に集中して勉強できる環境は社会人には貴重。
- ・仕事の継続によるリスク回避の手段として唯一のもの。予備試験は現実的でない。
- ・ローリスク、ハイリターン、落ちてもそれほど影響なく、合格すれば以前の仕事とシナジー効果が発揮でき、高いリターンが得られる。
- ・合格できなくても、元の職場に戻るというセーフティネットを維持できる。

法曹の多様性確保に関する主な意見

- ・事務所勤務という働き方以外に、現在の仕事や経歴と連続したキャリアプランの形成がしやすい。
- ・夜間法科大学院は合格率こそ低いが、非常に優秀な社会人が集まっており、昼間の法科大学院とは単純に比較できないと思う。
- ・修習の頃の仲間と比べ、法科大学院の仲間は、はるかに個性的で人格に富んだ人が多かった。

学生同士の刺激に関する主な意見

- ・夜間法科大学院に通い、社会人の方から仕事や社会のことを聞いたのは勉強になった、様々な職種からの観点で法律を議論しあえる場として意義がある。

その他の意見

- ・会社は法科大学院に懐疑的な面もあり、定時に抜け出すには法科大学院のプレゼンスを高める必要あり。

以上

資料 2

地方・夜間法科大学院に関するアンケート集計結果 【①地方法科大学院】

【実施対象】地方・夜間の法科大学院出身の弁護士

【実施時期】2013年1月21日～2013年2月4日

【実施方法】FAXで送付・回答

【回答者総数】336名(うち地方法科大学院出身者278名, 夜間法科大学院出身者67名)

以下, 地方法科大学院出身者(278名)からの回答を集計したもの。

※注: 複数回答可の質問に関しては, 回答者総数を母数としてパーセンテージを計算。

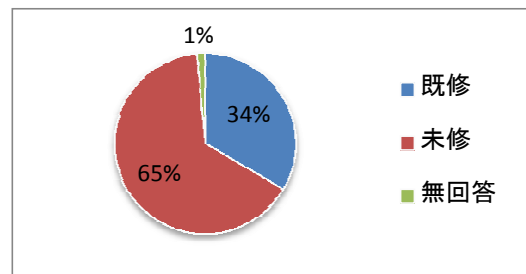
【回答者の属性について】

①出身法科大学院

北海道大学	52	金沢大学	30	岡山大学	19
北海学園大学	9	信州大学	7	香川大学	9
東北大学	47	新潟大学	17	熊本大学	8
東北学院大学	7	山梨学院大学	18	鹿児島大学	3
広島大学	19	静岡大学	5	琉球大学	5
広島修道大学	11	島根大学	8	合計	278
白鷗大学	4				

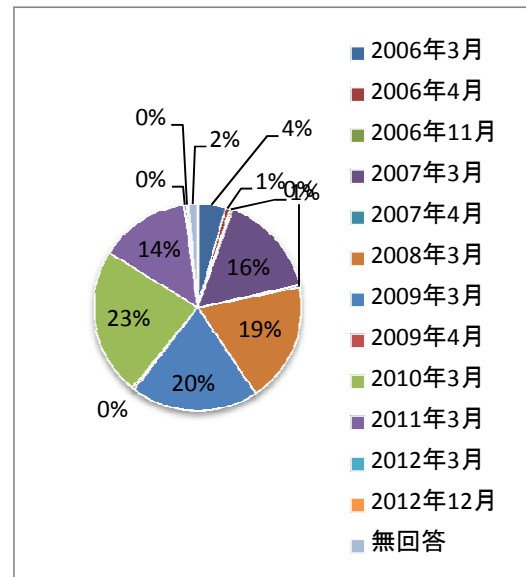
②既修・未修

既修	93	33.5%
未修	181	65.1%
無回答	4	1.4%
合計	278	100.0%



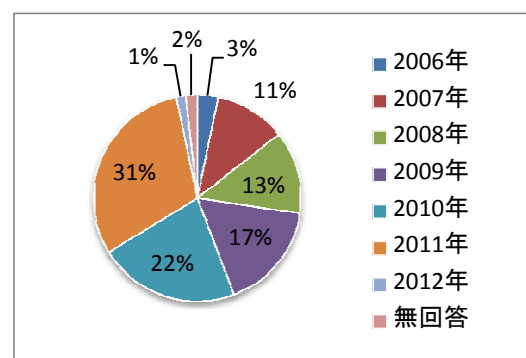
③法科大学院修了年月

2006年3月	12	4.3%
2006年4月	2	0.7%
2006年11月	1	0.4%
2007年3月	45	16.2%
2007年4月	1	0.4%
2008年3月	52	18.7%
2009年3月	55	19.8%
2009年4月	1	0.4%
2010年3月	64	23.0%
2011年3月	39	14.0%
2012年3月	1	0.4%
2012年12月	1	0.4%
無回答	4	1.4%
合計	278	100.0%



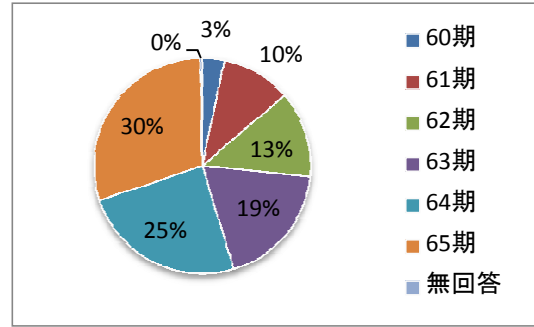
④司法試験合格年

2006年	9	3.2%
2007年	31	11.2%
2008年	36	12.9%
2009年	47	16.9%
2010年	61	21.9%
2011年	85	30.6%
2012年	4	1.4%
無回答	5	1.8%
合計	278	100.0%



⑤修習期

60期	9	3.2%
61期	29	10.4%
62期	36	12.9%
63期	52	18.7%
64期	68	24.5%
65期	83	29.9%
無回答	1	0.4%
合計	278	100.0%



⑥修習地

東京	13	津	1	那覇	6
横浜	2	岐阜	1	仙台	19
さいたま	3	福井	5	福島	7
千葉	3	金沢	19	山形	4
水戸	1	富山	2	盛岡	1
宇都宮	4	広島	25	秋田	3
前橋	2	山口	2	青森	2
静岡県	6	岡山	12	札幌	29
甲府	4	鳥取	3	旭川	9
長野	3	松江	6	釧路	5
新潟	10	福岡	4	高松	8
大阪	4	佐賀	2	徳島	1
京都	4	長崎	3	高知	2
奈良	2	大分	4	松山	7
大津	3	熊本	7	無回答	2
和歌山	2	鹿児島	4	合計	278
名古屋	3	宮崎	4		

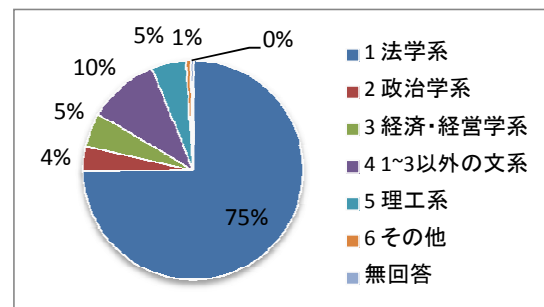
⑥所属弁護士会

東京	12	滋賀	3	宮崎県	2
第一東京	6	愛知県	3	沖縄	3
第二東京	6	三重	1	仙台	15
横浜	5	岐阜県	1	福島県	7
埼玉	2	福井	3	山形県	9
千葉県	2	金沢	15	岩手	2
茨城県	4	富山県	4	秋田	1
栃木県	4	広島	24	青森県	3
群馬	1	山口県	7	札幌	36
静岡県	7	岡山	12	函館	1
山梨県	5	鳥取県	3	旭川	2
長野県	5	島根県	5	釧路	2
新潟県	12	福岡県	8	香川県	5
大阪	5	長崎県	3	高知	1
京都	3	大分県	3	愛媛	3
兵庫県	1	熊本県	5	無回答	2
奈良	1	鹿児島県	3	合計	278

【履歴、志望理由について】

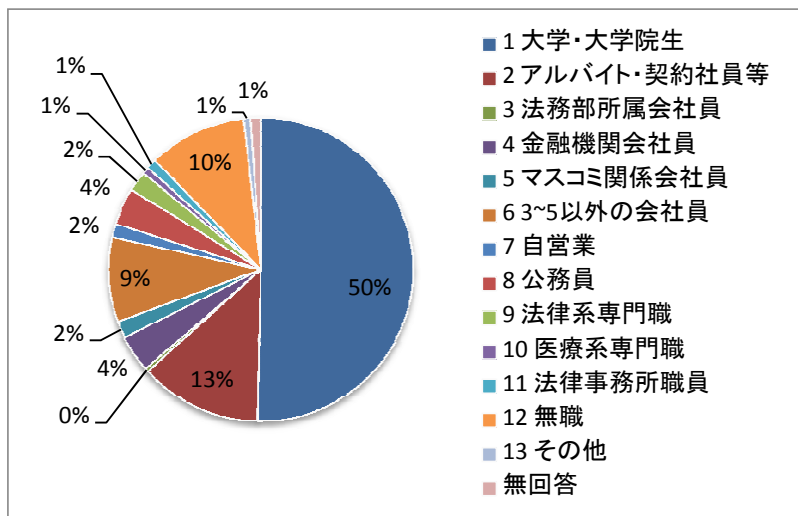
問1 大学の出身学部・学科はどの系統ですか。

1 法学系	208	74.8%
2 政治学系	10	3.6%
3 経済・経営学系	14	5.0%
4 1~3以外の文系	29	10.4%
5 理工系	14	5.0%
6 その他	2	0.7%
無回答	1	0.4%
合計	278	100.0%



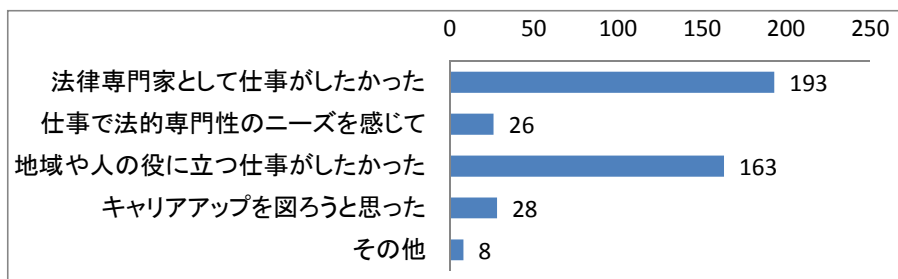
問2 法科大学院に進学する以前の履歴は何ですか。

1 大学・大学院生	140	50.4%
2 アルバイト・契約社員等	36	12.9%
3 法務部所属会社員	1	0.4%
4 金融機関会社員(法務部除く)	11	4.0%
5 マスコミ関係会社員	5	1.8%
6 3~5以外の会社員	25	9.0%
7 自営業	4	1.4%
8 公務員	11	4.0%
9 法律系専門職	6	2.2%
B 司法書士	6	2.2%
10 医療系専門職	2	0.7%
A 医師	1	0.4%
D その他医療系専門職	1	0.4%
11 法律事務所職員	3	1.1%
12 無職	29	10.4%
13 その他	2	0.7%
無回答	3	1.1%
合計	278	100.0%



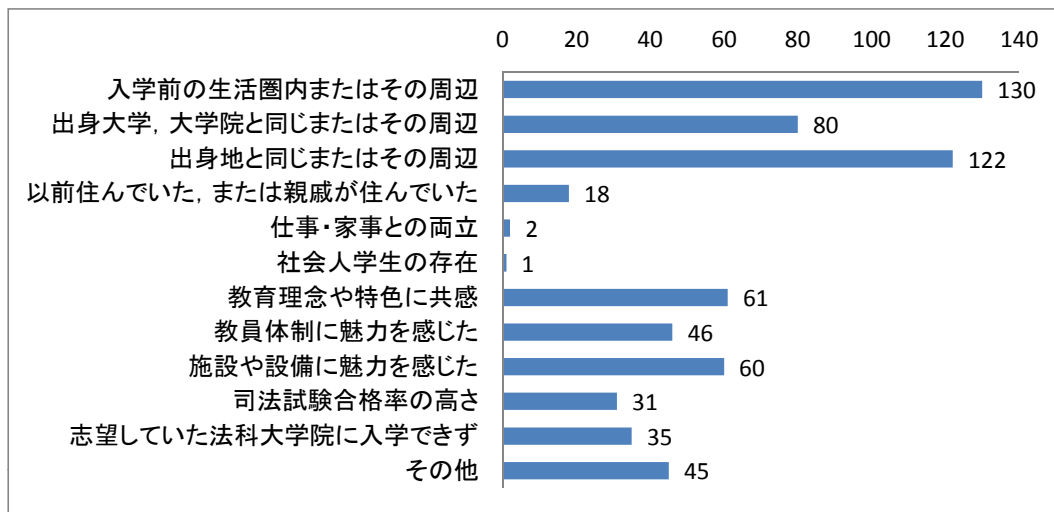
問3 あなたが法曹を志した理由は何ですか(複数回答可)。

法律専門家として仕事がしたかった	193	69.4%
仕事で法的専門性のニーズを感じて	26	9.4%
地域や人の役に立つ仕事がしたかった	163	58.6%
キャリアアップを図ろうと思った	28	10.1%
その他	8	2.9%
回答者総数	278	100.0%



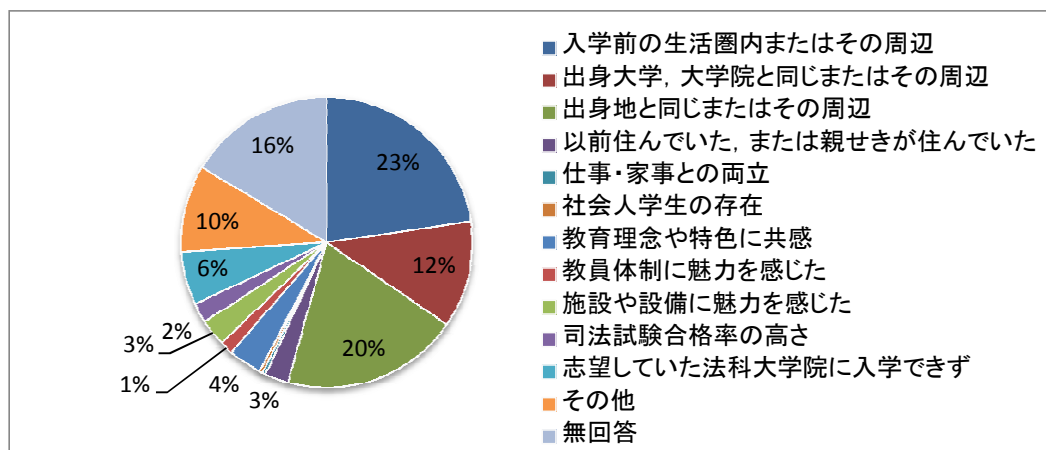
問4-1 あなたが通っていた地方・夜間の法科大学院を選択した理由は何ですか(複数回答可)。そのうち、最も重視した理由は何ですか。

入学前の生活圏内またはその周辺	130	46.8%
出身大学、大学院と同じまたはその周辺	80	28.8%
出身地と同じまたはその周辺	122	43.9%
以前住んでいた、または親戚が住んでいた	18	6.5%
仕事・家事との両立	2	0.7%
社会人学生の存在	1	0.4%
教育理念や特色に共感	61	21.9%
教員体制に魅力を感じた	46	16.5%
施設や設備に魅力を感じた	60	21.6%
司法試験合格率の高さ	31	11.2%
志望していた法科大学院に入学できず	35	12.6%
その他	45	16.2%
無回答	9	3.2%
回答者総数	278	100.0%



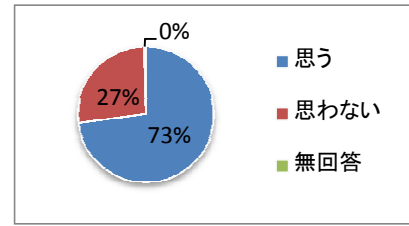
※最も重視した理由(選択した理由で無回答の場合は除く)

入学前の生活圏内またはその周辺	61	22.7%
出身大学、大学院と同じまたはその周辺	32	11.9%
出身地と同じまたはその周辺	53	19.7%
以前住んでいた、または親せきが住んでいた	7	2.6%
仕事・家事との両立	1	0.4%
社会人学生の存在	1	0.4%
教育理念や特色に共感	10	3.7%
教員体制に魅力を感じた	4	1.5%
施設や設備に魅力を感じた	8	3.0%
司法試験合格率の高さ	6	2.2%
志望していた法科大学院に入学できず	16	5.9%
その他	26	9.7%
無回答	44	16.4%
合計	269	100.0%



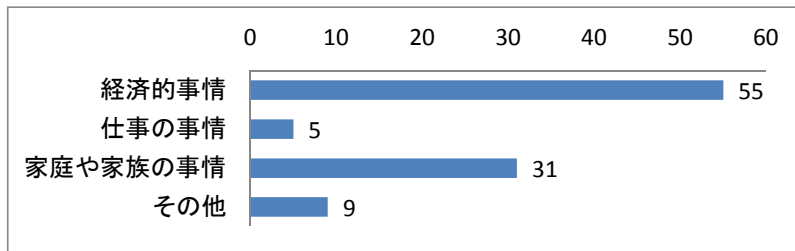
問4-2 もしあなたが通っていた地方・夜間の法科大学院がなかったら、他の法科大学院に進学して法曹を目指していたと思いますか。

思う	203	73.0%
思わない	74	26.6%
無回答	1	0.4%
合計	278	100.0%



問4-3 問4-2で思わないと回答された方はその理由は何ですか(複数回答可)。

経済的事情	55	74.3%
仕事の事情	5	6.8%
家庭や家族の事情	31	41.9%
その他	9	12.2%
回答者総数	74	100.0%



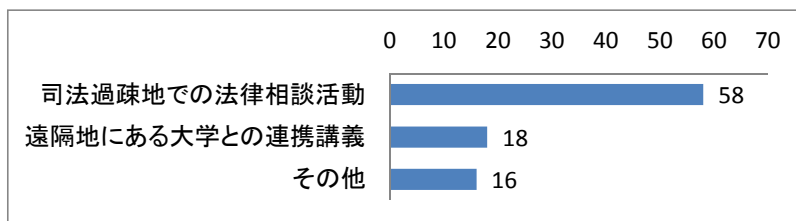
【地方法科大学院について】

問5 あなたが通っていた法科大学院において、地方の法科大学院ならではの講義があれば教えてください。(自由記載)

- ・「在住外国人と法」: 浜松地区等外国人労働者が多い地域における法的問題の検討(静岡)
- ・「地域社会と法」: 山梨県弁護士会の弁護士らの実務家が各専門分野や日々の仕事について一人一コマ担当し講義する(山梨学院)
- ・「地域と法」: 地域に生じた法的問題について調査研究する(島根)
- ・「司法制度論」: 司法過疎地域での弁護士の活動についての講義(北海道)
- ・「環境問題と法」: 水俣病や諫早湾干拓など地域独自の環境問題を学ぶ(熊本)
- ・「米軍基地法」: 米軍基地に関する様々な法的問題を検討する(琉球)
- ・「ハワイ大学ロースクール研修プログラム」: 外国人向け短期プログラムの受講(琉球) など

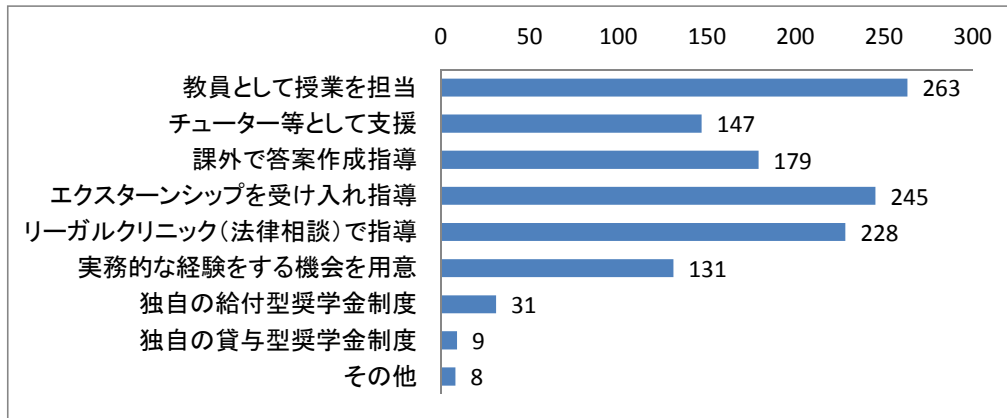
問6 あなたが通っていた法科大学院において、講義以外にも地方の法科大学院ならではの特色のある取組があれば教えてください(複数回答可)。

司法過疎地での法律相談活動	58	20.9%
遠隔地にある大学との連携講義	18	6.5%
その他	16	5.8%
無回答	194	69.8%
回答者総数	278	100.0%



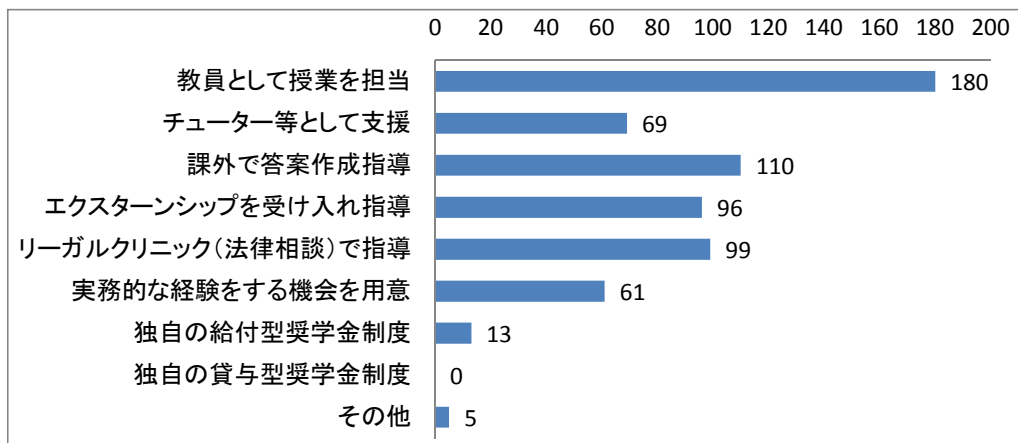
問7 法科大学院在学中に地元の弁護士や弁護士会からどのようなサポートがありましたか(複数回答可)。そのうち、あなたが活用した制度は何ですか(複数回答可)。

教員として授業を担当	263	94.6%
チューター等として支援	147	52.9%
課外で答案作成指導	179	64.4%
エクスターンシップを受け入れ指導	245	88.1%
リーガルクリニック(法律相談)で指導	228	82.0%
実務的な経験をする機会を用意	131	47.1%
独自の給付型奨学金制度	31	11.2%
独自の貸与型奨学金制度	9	3.2%
その他	8	2.9%
無回答	5	1.8%
回答者総数	278	100.0%



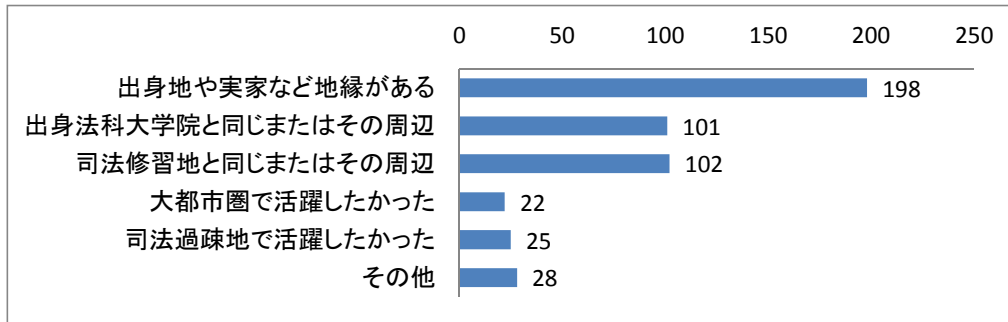
※利用した制度(サポートの有無で無回答の場合は除く)

教員として授業を担当	180	65.9%
チューター等として支援	69	25.3%
課外で答案作成指導	110	40.3%
エクスターンシップを受け入れ指導	96	35.2%
リーガルクリニック(法律相談)で指導	99	36.3%
実務的な経験をする機会を用意	61	22.3%
独自の給付型奨学金制度	13	4.8%
独自の貸与型奨学金制度	0	0.0%
その他	5	1.8%
無回答	70	25.6%
回答者総数	273	100.0%



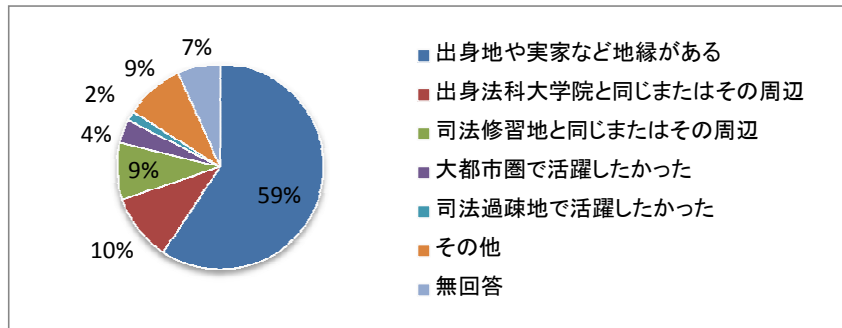
問8 あなたが現在の弁護士会や活動地域を選択した理由は何ですか(複数回答可)。そのうち、最も重視した理由は何ですか。

出身地や実家など地縁がある	198	71.2%
出身法科大学院と同じまたはその周辺	101	36.3%
司法修習地と同じまたはその周辺	102	36.7%
大都市圏で活躍したかった	22	7.9%
司法過疎地で活躍したかった	25	9.0%
その他	28	10.1%
無回答	10	3.6%
回答者総数	278	100.0%



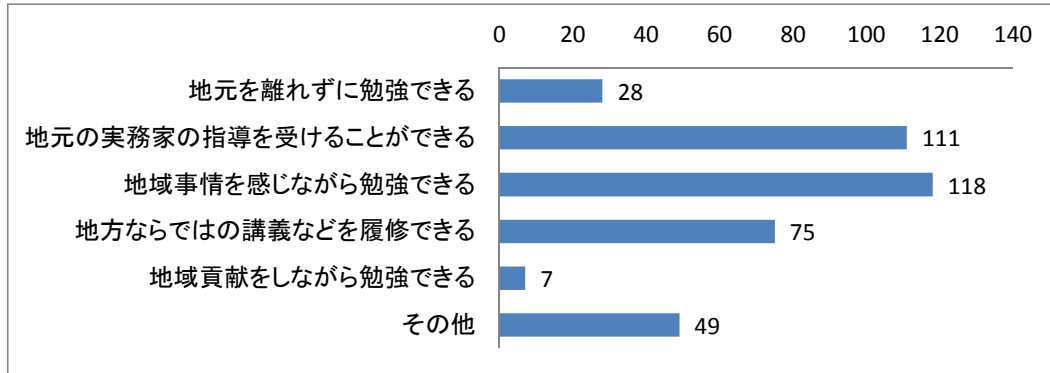
※最も重視した理由(選択した理由で無回答の場合は除く)

出身地や実家など地縁がある	159	59.3%
出身法科大学院と同じまたはその周辺	28	10.4%
司法修習地と同じまたはその周辺	24	9.0%
大都市圏で活躍したかった	10	3.7%
司法過疎地で活躍したかった	4	1.5%
その他	25	9.3%
無回答	18	6.7%
合計	268	100.0%



問9 地方の法科大学院で学んで良かったと思うことは何ですか(2つまで回答可)。

地元を離れずに勉強できる	28	10.1%
地元の実務家の指導を受けることができる	111	39.9%
地域事情を感じながら勉強できる	118	42.4%
地方ならではの講義などを履修できる	75	27.0%
地域貢献をしながら勉強できる	7	2.5%
その他	49	17.6%
無回答	40	14.4%
回答者総数	278	100.0%



問10 あなたの考える、地方に法科大学院が存在することの意義は何ですか。(自由記載)

- ・ 地域の実情を講義, 日常生活の中で実感しつつ, 地域で求められる法的ニーズに応えられる地域に根ざした法律家を目指していけること。
- ・ 地方で生活をおくることにより, 地方で活動することの魅力, 地方そのものの魅力を知り, 地方に根付く可能性が高くなる。
- ・ 地域に育ててもらったという意識があるかないかは法曹としての活動に少なからず影響を与えると思う。地域に貢献したいという気持ちが強い。
- ・ 地方に住む者, 地方で働きたい者に, 法曹となるチャンスを与える。
- ・ 教育学部や医学部が広く存在するのと同様に意義がある。
- ・ 経済的事情や家庭事情などで地元から離れることができない人にも法曹を目指すチャンスが与えられている点。
- ・ 地方の法律文化の拠点として, 必要である。
- ・ 地元弁護士会との密接な関係により, 実務に直結した学習等ができる。
- ・ 地方は本当に大変。その地方のオンリーワンであり, その県の弁護士会等のプライドが試される。
- ・ 全国52の弁護士会の全てに経験豊富な実務法曹がいるのだから, ロースクール教育のためにこれを活かさないのはもったいない。など

資料 3

地方・夜間法科大学院に関するアンケート集計結果 【②夜間法科大学院】

【実施対象】地方・夜間の法科大学院出身の弁護士

【実施時期】2013年1月21日～2013年2月4日

【実施方法】FAXで送付・回答

【回答者総数】336名(うち地方法科大学院出身者278名, 夜間法科大学院出身者67名)

以下, 夜間法科大学院出身者(67名)からの回答を集計したものの。

※注: 複数回答可の質問に関しては, 回答者総数を母数としてパーセンテージを計算。

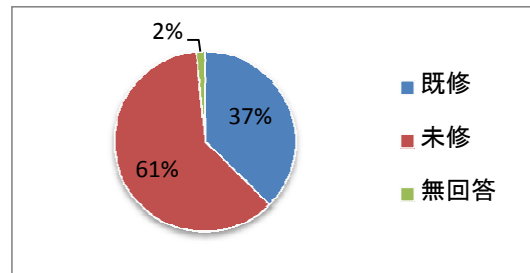
【回答者の属性について】

①出身法科大学院

筑波大学	5	大東文化大学	4	大阪学院大学	5
成蹊大学	20	桐蔭横浜大学	4	北海学園大学	9
大宮大学	10	名城大学	10	合計	67

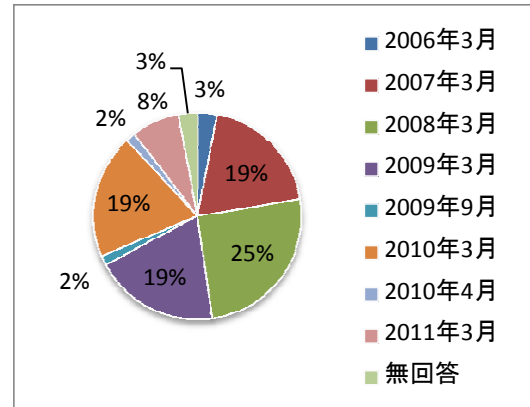
②既修・未修

既修	25	37.3%
未修	41	61.2%
無回答	1	1.5%
合計	67	100.0%



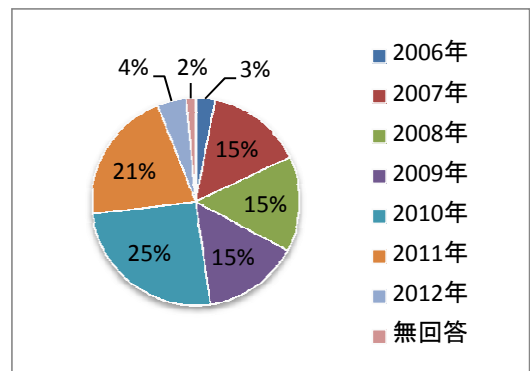
③法科大学院修了年月

2006年3月	2	3.0%
2007年3月	13	19.4%
2008年3月	17	25.4%
2009年3月	13	19.4%
2009年9月	1	1.5%
2010年3月	13	19.4%
2010年4月	1	1.5%
2011年3月	5	7.5%
無回答	2	3.0%
合計	67	100.0%



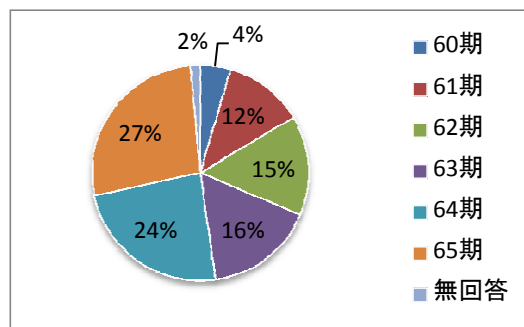
④司法試験合格年

2006年	2	3.0%
2007年	10	14.9%
2008年	10	14.9%
2009年	10	14.9%
2010年	17	25.4%
2011年	14	20.9%
2012年	3	4.5%
無回答	1	1.5%
合計	67	100.0%



⑤修習期

60期	3	4.5%
61期	8	11.9%
62期	10	14.9%
63期	11	16.4%
64期	16	23.9%
65期	18	26.9%
無回答	1	1.5%
合計	67	100.0%



⑥修習地

東京	20	名古屋	5	福島	1
横浜	6	津	2	盛岡	2
さいたま	3	福井	1	札幌	7
千葉	1	岡山	2	旭川	1
水戸	1	福岡	2	釧路	2
宇都宮	1	長崎	1	高松	1
静岡県	1	熊本	1	合計	67
大阪	3	鹿児島	1		
京都	1	那覇	1		

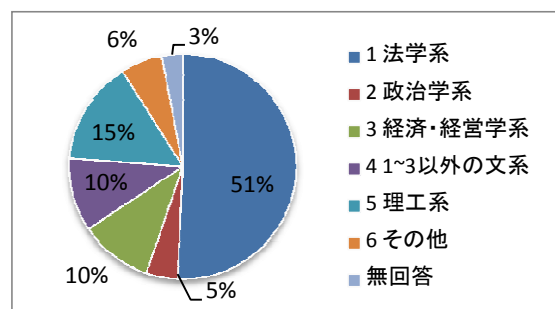
⑥所属弁護士会

東京	19	愛知県	7	大分県	1
第一東京	5	三重	1	山形県	1
第二東京	7	福井	1	岩手	2
横浜	1	金沢	1	青森県	2
茨城県	1	広島	1	札幌	6
栃木県	1	岡山	1	旭川	1
静岡県	1	島根県	1	釧路	1
大阪	4	福岡県	1	合計	67

【履歴、志望理由について】

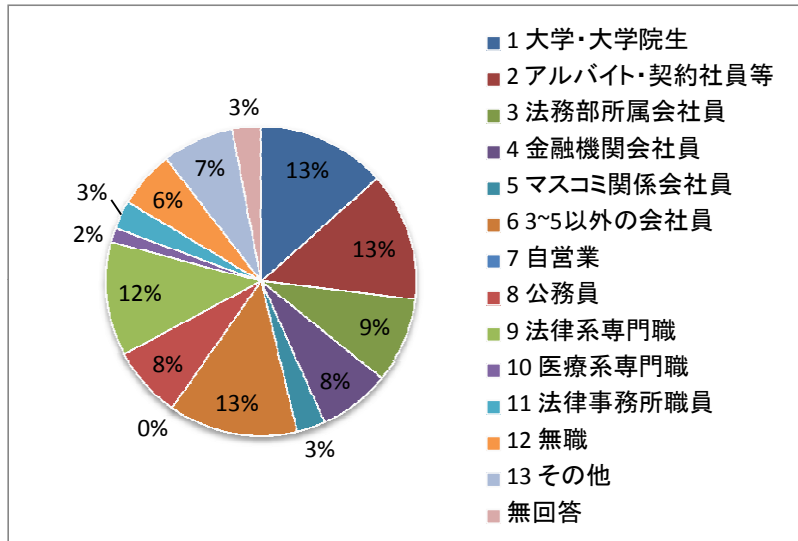
問1 大学の出身学部・学科はどの系統ですか。

1 法学系	34	50.7%
2 政治学系	3	4.5%
3 経済・経営学系	7	10.4%
4 1~3以外の文系	7	10.4%
5 理工系	10	14.9%
6 その他	4	6.0%
無回答	2	3.0%
合計	67	100.0%



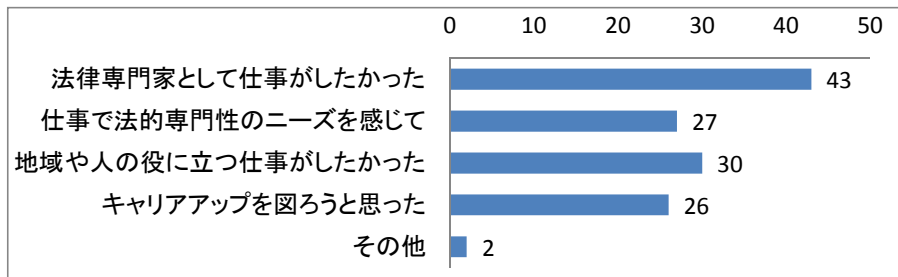
問2 法科大学院に進学する以前の履歴は何ですか。

1 大学・大学院生	9	13.4%
2 アルバイト・契約社員等	9	13.4%
3 法務部所属会社員	6	9.0%
4 金融機関会社員(法務部除く)	5	7.5%
5 マスコミ関係会社員	2	3.0%
6 3~5以外の会社員	9	13.4%
7 自営業	0	0.0%
8 公務員	5	7.5%
9 法律系専門職	8	11.9%
B 司法書士	1	1.5%
D 弁理士	1	1.5%
F 公認会計士	3	4.5%
I その他法律専門職	2	3.0%
無回答	1	1.5%
10 医療系専門職	1	1.5%
A 医師	1	1.5%
11 法律事務所職員	2	3.0%
12 無職	4	6.0%
13 その他	5	7.5%
無回答	2	3.0%
合計	67	100.0%



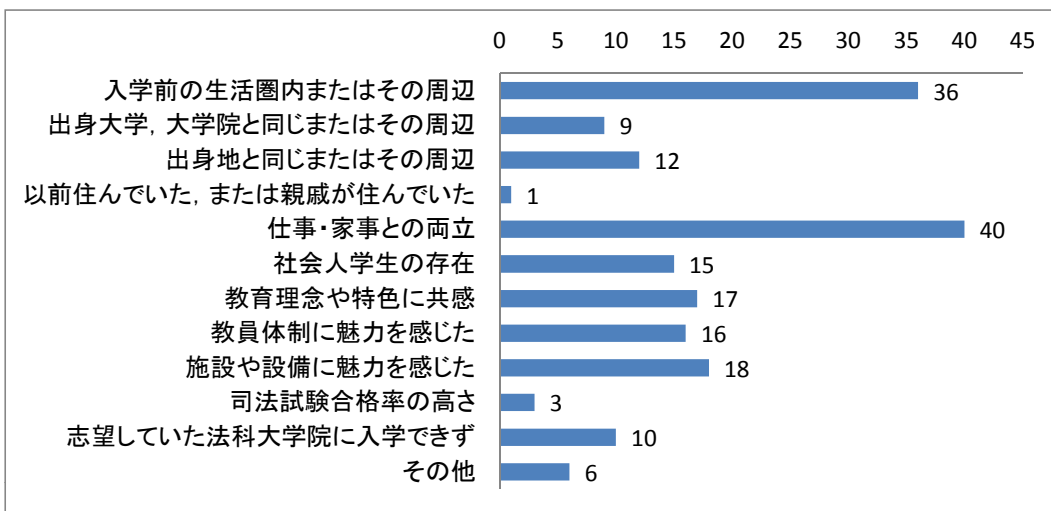
問3 あなたが法曹を志した理由は何ですか(複数回答可)。

法律専門家として仕事がしたかった	43	64.2%
仕事で法的専門性のニーズを感じて	27	40.3%
地域や人の役に立つ仕事がしたかった	30	44.8%
キャリアアップを図ろうと思った	26	38.8%
その他	2	3.0%
回答者総数	67	100.0%



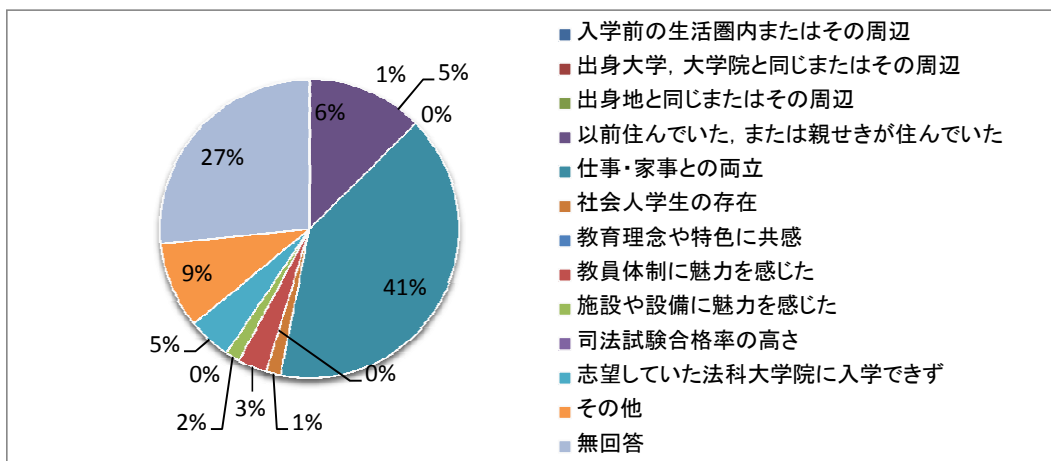
問4-1 あなたが通っていた地方・夜間の法科大学院を選択した理由は何ですか(複数回答可)。そのうち、最も重視した理由は何ですか。

入学前の生活圏内またはその周辺	36	53.7%
出身大学、大学院と同じまたはその周辺	9	13.4%
出身地と同じまたはその周辺	12	17.9%
以前住んでいた、または親戚が住んでいた	1	1.5%
仕事・家事との両立	40	59.7%
社会人学生が存在	15	22.4%
教育理念や特色に共感	17	25.4%
教員体制に魅力を感じた	16	23.9%
施設や設備に魅力を感じた	18	26.9%
司法試験合格率の高さ	3	4.5%
志望していた法科大学院に入学できず	10	14.9%
その他	6	9.0%
無回答	3	4.5%
回答者総数	67	100.0%



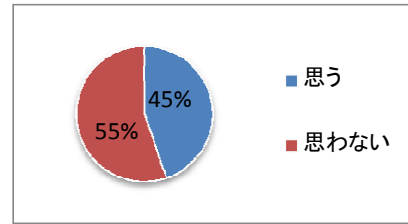
※最も重視した理由(選択した理由で無回答の場合は除く)

入学前の生活圏内またはその周辺	4	6.3%
出身大学、大学院と同じまたはその周辺	1	1.6%
出身地と同じまたはその周辺	3	4.7%
以前住んでいた、または親せきが住んでいた	0	0.0%
仕事・家事との両立	26	40.6%
社会人学生が存在	1	1.6%
教育理念や特色に共感	0	0.0%
教員体制に魅力を感じた	2	3.1%
施設や設備に魅力を感じた	1	1.6%
司法試験合格率の高さ	0	0.0%
志望していた法科大学院に入学できず	3	4.7%
その他	6	9.4%
無回答	17	26.6%
合計	64	100.0%



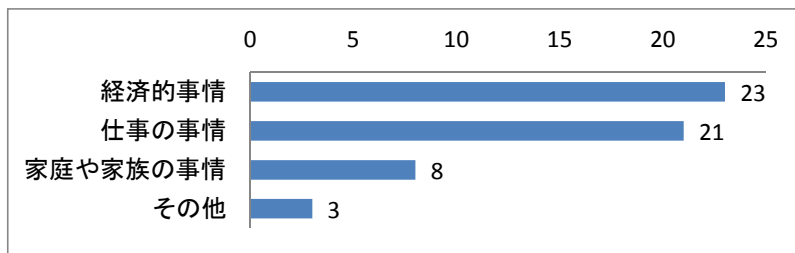
問4-2 もしあなたが通っていた地方・夜間の法科大学院がなかったら、他の法科大学院に進学して法曹を目指していたと思いますか。

思う	30	44.8%
思わない	37	55.2%
合計	67	100.0%



問4-3 問4-2で思わないと回答された方はその理由は何ですか(複数回答可)。

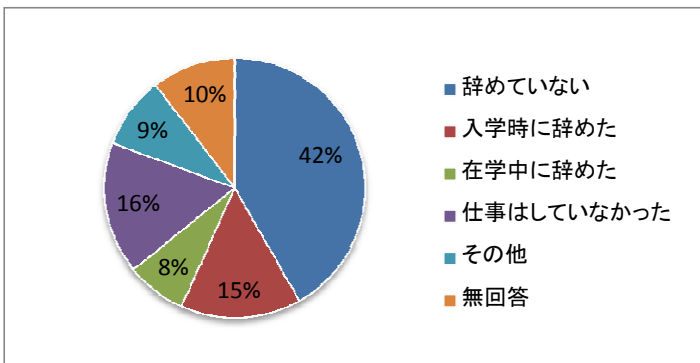
経済的事情	23	62.2%
仕事の事情	21	56.8%
家庭や家族の事情	8	21.6%
その他	3	8.1%
無回答	1	2.7%
回答者総数	37	100.0%



【夜間法科大学院について】

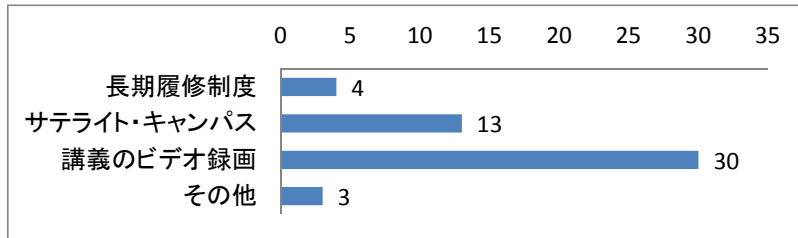
問11 法科大学院に通うにあたって、仕事は辞めましたか。

辞めていない	28	41.8%
入学時に辞めた	10	14.9%
在学中に辞めた	5	7.5%
2年目	3	4.5%
3年目	2	3.0%
仕事はしていなかった	11	16.4%
その他	6	9.0%
無回答	7	10.4%
合計	67	100.0%



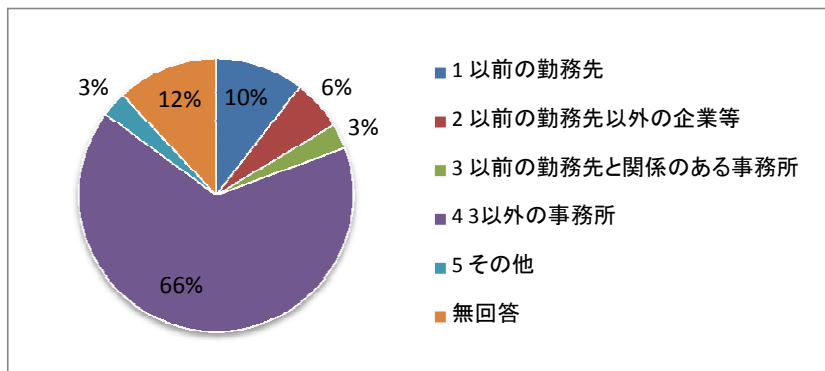
問12 あなたが通っていた夜間の法科大学院側のサポートで、あなたはどのような仕組みを利用しましたか（複数回答可）。

長期履修制度	4	6.0%
4年	3	4.5%
無回答	1	1.5%
サテライト・キャンパス	13	19.4%
講義のビデオ録画	30	44.8%
その他	3	4.5%
利用しなかった	18	26.9%
無回答	9	13.4%
回答者総数	67	100.0%



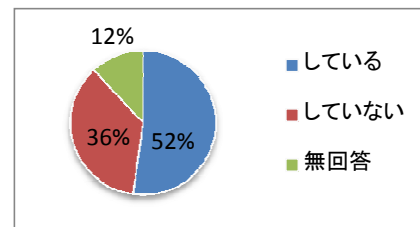
問13 現在の職場について教えてください。

1 以前の勤務先	7	10.4%
2 以前の勤務先以外の企業・官庁・自治体等	4	6.0%
3 以前の勤務先と関係のある法律事務所	2	3.0%
4 3以外の法律事務所	44	65.7%
5 その他	2	3.0%
無回答	8	11.9%
合計	67	100.0%



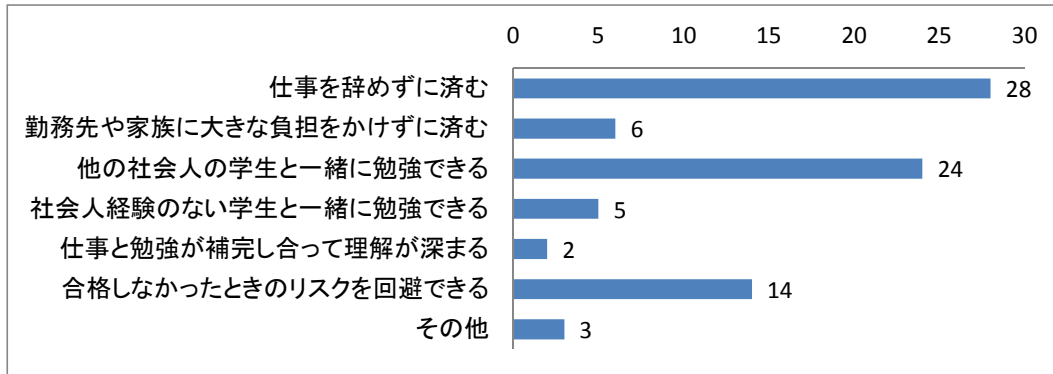
問14 法曹になってから、法科大学院進学以前の職能や専門分野を踏まえた活動(仕事)をしていますか。

している	35	52.2%
していない	24	35.8%
無回答	8	11.9%
合計	67	100.0%



問15 夜間の法科大学院で学んで良かったと思うことは何ですか(2つまで回答可)。

仕事を辞めずに済む	28	41.8%
勤務先や家族に大きな負担をかけずに済む	6	9.0%
他の社会人の学生と一緒に勉強できる	24	35.8%
社会人経験のない学生と一緒に勉強できる	5	7.5%
仕事と勉強が補完し合って理解が深まる	2	3.0%
合格しなかったときのリスクを回避できる	14	20.9%
その他	3	4.5%
無回答	16	23.9%
回答者総数	67	100.0%



問16 あなたの考える、夜間の法科大学院の存在意義は何ですか。(自由記載)

- ・働きながら仕事や家庭とは別に集中して勉強できる環境は社会人には貴重。
- ・仕事の継続によるリスク回避の手段として唯一のもの。予備試験は現実的でない。
- ・ローリスク、ハイリターン、落ちててもそれほど影響なく、合格すれば以前の仕事とシナジー効果が発揮でき、高いリターンが得られる。
- ・合格できなくても、元の職場に戻るというセーフティネットを維持できる。
- ・事務所勤務という働き方以外に、現在の仕事や経歴と連続したキャリアプランの形成がしやすい。
- ・夜間法科大学院は合格率こそ低いですが、非常に優秀な社会人が集まっており、昼間の法科大学院とは単純に比較できないと思う。
- ・修習の頃の仲間と比べ、法科大学院の仲間は、はるかに個性的で人格に富んだ人が多かった。
- ・夜間法科大学院に通い、社会人の方から仕事や社会のことを聞いたのは勉強になった、様々な職種からの観点で法律を議論しあえる場として意義がある。
- ・会社は法科大学院に懐疑的な面もあり、定時に抜け出すには法科大学院のプレゼンスを高める必要あり。など

日弁連法1第494号
2013年(平成25年)1月21日

地方法科大学院出身の会員 各位
夜間法科大学院出身の会員 各位

日本弁護士連合会
事務総長 荒 中
(公印省略)

地方・夜間の法科大学院に関するアンケートへの御協力について (依頼)

日頃より、当連合会の諸活動に御理解、御協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、2004年に創設された法科大学院を中核とする法曹養成制度に関しまして、当初想定を下回る司法試験合格率や、法曹志願者の減少など様々な問題点が指摘される中、現在、閣議決定に基づき設置された政府の法曹養成制度検討会議(以下「検討会議」という。)において、法科大学院の統廃合や定員削減など制度改善に向けた検討が進められております。

法科大学院の統廃合や定員削減については、先般開催された第5回検討会議において、それを実行するための具体的措置やその問題点を整理する作業を、検討会議の事務局(法務省)を中心に、当連合会を含む関係機関の意見も聞きながら進めることが確認されました。

当連合会は、昨年7月13日の「法科大学院制度の改善に関する具体的提言」において、地域適正配置の理念や学生の多様性確保の意義に鑑み、統廃合及び定員削減にあたっては、当該法科大学院の改善努力の実施状況など一定の条件の下、地方・夜間の法科大学院に対して時間的猶予を認めるべきと提言しています。

そこで、検討会議において法科大学院の統廃合や定員削減の具体的措置が検討されるに当たり、地域適正配置の理念や学生の多様性確保にも十分配慮がなされるよう、実際に地方・夜間の法科大学院を利用した出身弁護士を対象にアンケートを実施し、その声を集約して、地方に法科大学院が存在することの意義や、夜間法科大学院の必要性を訴えていくための基礎資料にしたいと考えております。

つきましては、別紙2の「地方・夜間の法科大学院に関するアンケート」を送付させていただきますので、御回答のうえ、【2月4日(月)までに】当連合会までF

AXにて御返送いただきたく、御依頼申し上げます。

なお、本書及びアンケートは、便宜上、新第60期以降の会員に発送しております。
本アンケートの回答対象は、別紙1記載の法科大学院出身の会員のみとなります。
該当校出身ではない方は、お手数とは存じますが、本アンケートを破棄していただくだけ幸いです。

また、一部の方におかれましては、本アンケートとは別に法科大学院関係者の有志から同趣旨のアンケートが送付されていることと存じます。統計の都合上、こちらのアンケートに回答済みの方であっても、本アンケートに御回答いただきたく、併せてお願いいたします。

本アンケートへの回答については、統計的に処理・分析し、その集計結果を個人が特定されない状態で検討会議等に資料として提出する予定ですので、予め御了承ください。

御多忙の折、短期間での御依頼で誠に恐縮ではございますが、御協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

【添付資料】

地方・夜間の法科大学院に関するアンケート回答対象の法科大学院一覧(別紙1)
地方・夜間の法科大学院に関するアンケート(別紙2)

【本件に関するお問合せ先、アンケート返送先】

日本弁護士連合会法制部法制第一課(担当：日置、次田)
TEL:03-3580-9882
FAX:03-3580-5055

(別紙2)

※別紙1の「地方・夜間の法科大学院」の出身ではない会員の方におかれましては、回答不要です。
ので、お手数ですが、破棄していただければ幸いです。

地方・夜間の法科大学院に関するアンケート

実施対象：別紙1の「地方・夜間法科大学院」出身の会員
 回答期限：2013年(平成25年)2月4日(月)
 提出方法：下記宛にFAXにて御提出ください。
 日本弁護士連合会法制部法制第一課 FAX 03-3580-5055
 留意事項：①別紙1の「地方法科大学院」出身の方は問1～問10に回答してください。
 別紙1の「夜間法科大学院」出身の方(主に夜間の授業を受講されていた方を含みます。)は問1～問4及び問11～問16に回答してください。
 ②記載欄が足りない場合は、空白を活用してください。

法科大学院名： _____ 法科大学院 / コース： 1 既修 2 未修
 修了年： 西暦 _____ 年 _____ 月 / 合格年： 西暦 _____ 年
 修習期： _____ 期 / 修習地： _____ / 所属弁護士会： _____ 弁護士会

問1～問4：全ての方にお聞きします。

問1 大学の出身学部・学科はどの系統ですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- 1 法学系
- 2 政治学系
- 3 経済/経営学系
- 4 1～3以外の文系 (_____ 学系)
- 5 理・工系 (_____ 学系)
- 6 その他 (_____)

問2 法科大学院に進学する以前の履歴は何ですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。
 19 法律系専門職「10 医療系専門職」と回答された方は、あてはまるアルファベットにも1つ○を付けてください。

- 1 大学生・大学院生
- 2 アルバイト・契約社員など非正規雇用
- 3 法務部所属の会社員
- 4 金融機関(法務部を除く)の会社員
- 5 マスコミ関係の会社員
- 6 3, 4, 5以外の会社員
- 7 自営業
- 8 公務員
- 9 法律系専門職 (A 外国法曹 / B 司法書士 / C 行政書士 / D 弁理士 / E 税理士 / F 公認会計士 / G 社会保険労務士 / H 弁理士 / I その他法律系専門職)
- 10 医療系専門職 (A 医師 / B 看護師 / C 薬剤師 / D その他医療系専門職)
- 11 法律事務所職員
- 12 無職
- 13 その他 (_____)

問3 あなたが法曹を志した理由は何ですか。あてはまる番号全てに○を付けてください。

- 1 法律専門家として仕事をしたかった
- 2 仕事で法的専門性のニーズを感じて、さらに深めたいと思った

(別紙1)

地方・夜間の法科大学院に関するアンケート回答対象の法科大学院一覧

下記に記載されている地方・夜間の法科大学院出身の会員の方のみ、別紙2のアンケートに回答願います。

地方法科大学院
北海道大学法科大学院
北海学園大学法科大学院
東北大学法科大学院
東北学院大学法科大学院
広島大学法科大学院
広島修道大学法科大学院
白鷗大学法科大学院
金沢大学法科大学院
信州大学法科大学院
新潟大学法科大学院
山梨学院大学法科大学院
静岡大学法科大学院
岡山大学法科大学院
島根大学法科大学院
香川大学法科大学院
熊本大学法科大学院
鹿児島大学法科大学院
琉球大学法科大学院

夜間法科大学院
北海学園法科大学院
筑波大学法科大学院
成蹊大学法科大学院
大宮法科大学院法科大学院
大東文化大学法科大学院
桐蔭横浜大学法科大学院
名城大学法科大学院
大阪学院大学法科大学院

※注1：本アンケートにおける「地方法科大学院」は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県、福岡県以外の所在地に存在する法科大学院とします。

※注2：本アンケートにおける「夜間法科大学院」は、土日・夜間に開講されている授業を中心に履修することで修了することができる法科大学院とします。

- 3 法的専門性を活かして、地域や人の役に立つ仕事があった
- 4 法的専門性を活かして、キャリアアップを図ろうと思った
- 5 その他

問 4-1 あなたが通っていた地方・夜間の法科大学院を選択した理由は何ですか。あてはまる番号全てに○を付けたうえ、最も重視した理由を数字で記入してください。

- 最も重視した理由→
- 1 入学前の生活圏内、又はそれに比較的近い地域にあったから
 - 2 出身大学、出身法科大学院のある地域、又はそれに比較的近い地域にあったから
 - 3 出身地、又はそれに比較的近い地域にあったから
 - 4 以前住んでいた、又は親戚が住んでいた地域にあったから
 - 5 土日・夜間の授業を中心に履修することで仕事や家事と両立しながら通うことができると思っていたから
 - 6 社会人の学生と一緒に勉強できると思ったから
 - 7 当該法科大学院の教育理念や特色に共感したから
 - 8 当該法科大学院の教員(体制)に魅力を感じたから
 - 9 当該法科大学院の施設や設備に魅力を感じたから
 - 10 司法試験の合格率が高かったから
 - 11 志望していた法科大学院に入学できなかつたから
 - 12 その他

問 4-2 もしあなたが通っていた地方・夜間の法科大学院がなかったら、他の法科大学院に進学して法曹を目指していたと思いますか。

- 1 思う
- 2 思わない

問 4-3 問 4-2 で「2 思わない」と回答された方はその理由としてあてはまる番号全てに○を付けてください。

- 1 経済的事情 (具体的に)
- 2 仕事の事情 (具体的に)
- 3 家庭や家族の事情 (具体的に)
- 4 その他 (具体的に)

問 5～問 10：別紙 1 の「地方法科大学院」出身の方にお聞きします。

問 5 あなたが通っていた法科大学院において、地方の法科大学院ならではの講義があれば教えてください。

- 1 講義名 (具体的に)
- 2 講義内容 (具体的に)

問 6 あなたが通っていた法科大学院において、講義以外にも地方の法科大学院ならではの特色のある取組があれば、あてはまる番号全てに○を付けたうえで、具体的内容を教えてください。

- 1 司法過疎地で社会貢献を踏まえた法律相談活動を行っている活動地域
- 2 遠隔地にある大学との連携講義を行っている

- 講義名 (
- 講義内容 (具体的に)
- 3 その他 (具体的に)

問 7 法科大学院在学中に地元の弁護士会や弁護士会からどのようなサポートがありましたか。あてはまる番号全てに○を付けたうえで、あなたが活用した制度を数字で記入してください。

- 利用した制度→
- 1 教員として授業を担当していた
 - 2 チューター (アカデミックアドバイザー、ティーチングアシスタント等) として支援していた
 - 3 課外で答案作成指導 (起案指導・答案練習会) をしていた
 - 4 エクスターナシッピングを受け入れ指導していた
 - 5 リーガルクリニック (法律相談) で指導をしていた
 - 6 裁判傍聴や事務所訪問などの実務的な経験を独自に積む機会が用意されていた
 - 7 地元の有志の弁護士や弁護士会による独自の給付型奨学金制度があった
 - 8 地元の有志の弁護士や弁護士会による独自の貸与型奨学金制度があった
 - 9 その他

問 8 あなたが現在の弁護士会や活動地域を選択した理由は何ですか。あてはまる番号全てに○を付けてください。

- 最も重視した理由→
- 1 出身地や実家など地縁のある都道府県、又はその周辺都道府県であったから
 - 2 出身法科大学院のある都道府県、又はその周辺都道府県であったから
 - 3 司法修習地と同じ都道府県、又はその周辺都道府県であったから
 - 4 大都市圏で活動したかったから
 - 5 司法過疎地で活動したかったから
 - 6 その他

問 9 地方の法科大学院で学んでよかつたと思うことは何ですか。あてはまる番号 2 つまで○を付けてください。

- 1 地元を離れずに勉強できること
- 2 地元の実務家の指導を受けることができること
- 3 地域事情を感じながら勉強できること
- 4 地方ならではの講義などを履修できること
- 5 地域貢献をしながら勉強できること
- 6 その他

問 10 あなたの考える、地方に法科大学院が存在することの意義は何ですか。

問11～問16：別紙1の「夜間法科大学院」出身の方にお聞きします。

問11 法科大学院に通うにあたって、仕事は辞めましたか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- 1 辞めていない
- 2 入学時に辞めた
- 3 在学中に辞めた（入学後何年目の時ですか⇒ 年目；理由：_____）
- 4 仕事はしていません
- 5 その他（_____）

問12 あなたが通っていた夜間の法科大学院側のサポートで、あなたはどのような仕組みを利用しましたか。あてはまる番号全てに○をつけてください。

- 1 長期履修制度（_____年）
- 2 サテライト・キャンパス
- 3 講義のビデオ録画
- 4 その他（_____）
- 5 利用しなかった

問13 現在の職場について、あてはまる番号1つに○を付けてください。

- 1 以前の勤務先
- 2 以前の勤務先以外の企業・官庁・自治体等
- 3 以前の勤務先と関係のある法律事務所
- 4 3以外の法律事務所
- 5 その他（_____）

問14 法曹になってから、法科大学院進学以前の職能や専門分野を踏まえた活動（仕事）をしていますか。

- 1 している（差し支えない範囲で具体的に：_____）
- 2 していない

問15 夜間の法科大学院で学んでよかったと思うことは何ですか。あてはまる番号2つまで○を付けてください。

- 1 仕事を辞めずに済むこと
- 2 勤務先や家族に大きな負担をかけずに済むこと
- 3 他の社会人の学生と一緒に勉強できること
- 4 社会人経験のない学生と一緒に勉強できること
- 5 仕事と勉強が補完し合って、仕事や勉強それぞれの理解が深まること
- 6 仕事が継続できるので、合格しなかったときのリスクを回避できること
- 7 その他（_____）

問16 あなたの考える、夜間の法科大学院の存在意義は何ですか。

御協力ありがとうございました。